

## 第 40 回熊本県臨床細胞学会 スライドカンファレンス

### 《症例 1》

- ・患者：70 歳代、男性
- ・現病歴：当院にて右上葉肺腺癌術後フォロー中、心エコーより全周性に心嚢液貯留がみつき、心タンポナーゼが指摘された。CT 上では明らかな腫瘤形成、リンパ節腫大の指摘はなかった。心嚢ドレナージ施行後、細胞診検査となった。
- ・検体：心嚢ドレナージ(心嚢液)

### 《症例 2》

- ・患者：70 歳代、女性
- ・既往歴：子宮筋腫、左慢性中耳炎
- ・現病歴：左鼓膜形成術後であり経過観察を行っていたところ、数週間前より右頸部の腫脹を自覚、頸部超音波検査にて右上内頸部に長径 3 cm 程度のリンパ節の腫脹がみられた。そのまま経過をみていたが、リンパ節の縮小はみられなかったため、穿刺吸引細胞診が施行された。
- ・検体：リンパ節穿刺吸引

※ 回答締め切り：2025 年 2 月 10 日（月）

### 【回答フォーム】

URL: <https://forms.gle/ZYZLxvwyxsYK6hLg7>

